CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

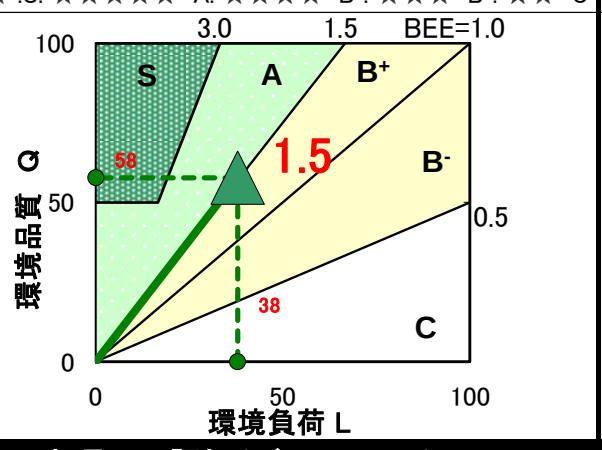
建物名称	(仮称)出光美術館門司増築工事	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市門司区東港町25番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年6月　予定	評価の実施日	2015年6月25日
敷地面積	2,435 ㎡	作成者	津嶋功
建築面積	881 ㎡	確認日	2015年6月25日
延床面積	2,185 ㎡	確認者	津嶋功

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート

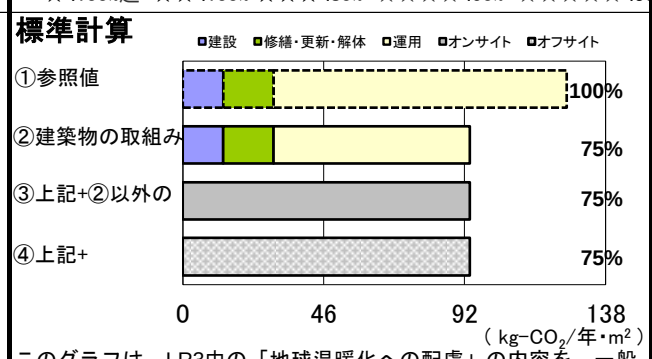
= BEE 1.5

★ :S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C



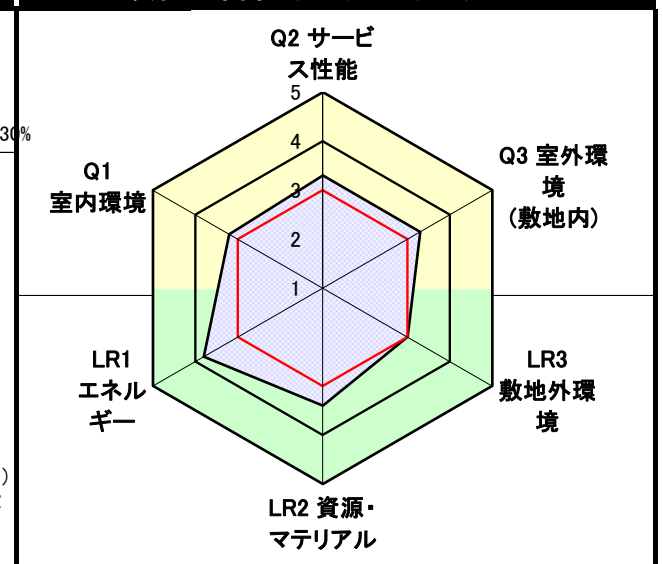
2-2 ライフサイクルCO$_2$(温暖化影響チャート)

☆ :100%超　☆☆ :100%　☆☆☆ :80%　☆☆☆☆ :60%　☆☆☆☆☆ :30%



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

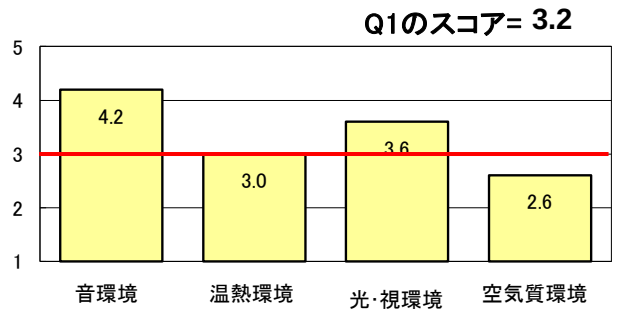
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



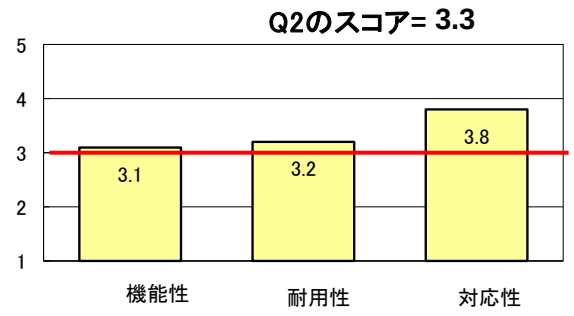
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.3

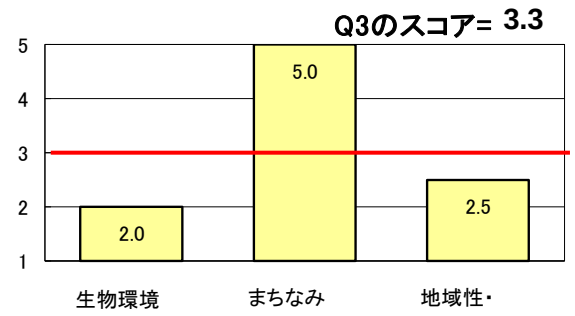
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.3

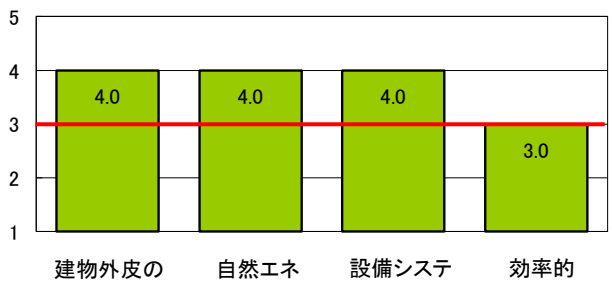


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.3

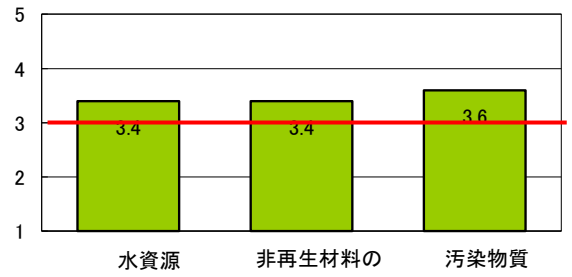


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.4

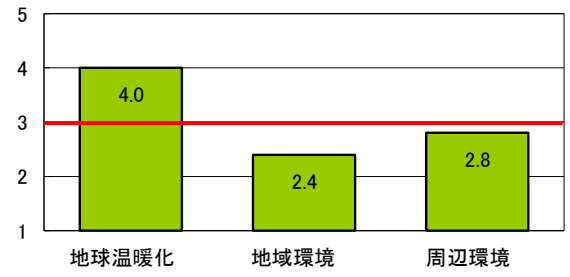
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.4



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

総合

・門司港レトロ地区のレンガ建築と調和する建物として、既存美術館の増築計画である。外壁にはレンガタイルやコンクリート打放しなどを採用し、景観特性に配慮した建物を目指した。高潮、セキュリティの理由により、展示室・収蔵庫を2,3階に設置するため、コンパクトな3階建として計画した。当該地区の新しい集客施設としてにぎわいを生み出す建築物となることを期待する。

その他

当該地域は、美術館としては環境負荷の大きい自然環境ではあるが、開口部を極力少なくすることで、美術館としての基本性能を確保している。

Q1 室内環境

・展示室やホワイエは、ゆったりとした天井高さを確保した。

Q2 サービス性能

・来館者エリアをバリアフリー対応とした。将来の改修のしやすさを考慮し、内部間仕切壁を乾式壁とした。

Q3 室外環境（敷地内）

・既存美術館の緑化率を尊重し、既存樹木を保存している。また、商業地域ではあるが、周囲への日影等の影響は最小限の建物高さとした。

LR1 エネルギー

・熱源選定の際に、GHPとＥＨＰの比較検討を行っている。既存のGHPを移設し、再利用している。

LR2 資源・マテリアル

・内装仕上げはF☆☆☆☆とし、接着剤や塗料からの化学物質を含まない材料を採用している。

LR3 敷地外環境

・ガラスキャノピーによって、ピロティ下の外部空間における来館者の利便性を向上している。また、前面道路側に面する花壇なども敷地内ではあるが、歩道としても利用可能なスペースを確保し、良好な歩行者空間を提供している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO$_2$」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO$_2$排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される